



ウイズコロナに向けてコロナワクチンを！

あけましておめでとうございます。年明けも新型コロナ第8波の波の真っ只中にいます。小児のコロナ感染者数は、昨年初めの第6波から増えはじめ、健康な小児の死亡例の報告が相次ぐようになりました。昨年10月末時点で27名の10歳未満の健康な小児が亡くなっています。

それに対して、小児のコロナワクチンは、2022年2月からは5歳～11歳を対象に小児用ワクチンが開始されましたが、2回接種率は11月時点で23%程度と、12歳～18歳の80%と比べて極端に低い状況となっています。第7波、第8波の小児のコロナの流行は、12歳以下の年齢層のコロナワクチン接種率の低さが関係していると思われます。接種率が低い理由には、「ワクチンへの信頼性が低い、健康な子どもは軽症という情報のままアップデートされていないなど」がありますが、小児科学会やVPD(ワクチンで防げる病気にはワクチン接種を勧める団体)は積極的にワクチン接種を推奨しています。VPDは接種を勧める理由として以下の3点をあげています。

- ① コロナはワクチンで重症化を予防することができる病気である。
- ② コロナにかかると後遺症(全身倦怠感、記憶障害や集中力の低下など)が長引くことがある。
- ③ 初回接種(小児は2回、乳児は3回)が未接種の小児は現時点では追加接種が受けられない。

(KNOW★VPD！ ニュースレター33より)

幼児期に育てる大切な力とは？

スマホを使う前に幼児期に身につける必要な人間の基礎力として、山田眞理子先生は以下の3点をあげています。(昨年の園医会より)

- ① **協力する力**
人類は人と協力することを基礎に生き延びてきた。
- ② **工夫する力**
人類は、自分で工夫することで生活圏を広げてきた。
- ③ **想像力**
人類は想像力を持つことで進歩してきた。

幼児期にはいろいろな経験をさせてあげたいものです。



12月の感染症情報

新型コロナ感染症が流行の主体でした。新型コロナによる学校や園の学級閉鎖や学年閉鎖の報告も相次ぎ、第7波に比べて集団生活の場での流行が目立ちました。心配していたインフルエンザは皆無でした。先月に続き、手足口病、ヒトメタニューモウイルス感染症の持続的な発生がみられました。発熱、咳が長引くときは、ヒトメタニューモウイルス感染に注意が必要です。



12月の利用状況

12月の利用延べ人数は98人で、1日の平均利用人数は4.6人でした。年齢別では2歳児が40人で最も多く、次いで1歳児の30人でした。疾患別では、急性上気道炎が43人で最も多く、次いでヒトメタニューモウイルス感染症27人、手足口病10人の順でした。その他、気管支喘息、感染性胃腸炎による入室がありました。

2022年は行動制限のない年末でした。今年は県をまたぐ移動が増え、国外から旅行客が押し寄せてきます。年明けからのコロナとインフルエンザの同時流行が心配です。発症予防、重症化予防にはワクチン接種が最も有効です。成人も含めコロナワクチン接種について再考してみてください。